

防災気象情報に関するアンケート 結果速報(2013/4/22)

静岡大学防災総合センター

牛山 素行

<http://disaster-i.net/>

1

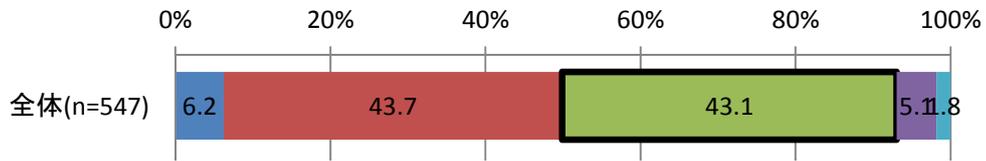
調査手法

- 2004年調査
 - gooリサーチ(NTTレゾナント社)登録モニター対象のネット調査
 - 2004年3月17日メール配信, 3月18日締切. 有効回答407件
- 2007年調査
 - gooリサーチ(NTTレゾナント社)登録モニター対象のネット調査
 - 2007年2月28日メール配信, 3月1日締切. 有効回答528件
- 2010年調査
 - gooリサーチ(NTTレゾナント社)登録モニター対象のネット調査.
 - 盛岡市, 静岡市, 名古屋市在住者
 - 2010年3月2日メール配信, 3月3日締切. 有効回答539件
- 2013年調査
 - gooリサーチ(NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社)登録モニター対象のネット調査.
 - 盛岡市, 静岡市, 名古屋市在住者
 - 2013年3月1日メール配信, 3月5日締切. 有効回答547件

2

警報の意味

気象庁から、大雨警報、暴風警報など、気象に関する警報が発表されることがあります。この「警報」とはどのような意味を持つ情報だと思いますか。

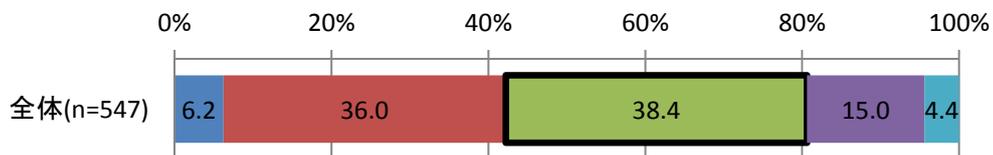


- 災害が起こるほどではないが念のため注意することを呼びかける情報
- 災害が起こるおそれがあることを注意する情報
- 重大な災害が起こるおそれのあることを警告する情報
- 非常に危険な状況になったので避難を呼びかける情報
- わからない

3

警報の地域単位

気象に関する警報は、どの程度の地域的な広がり単位として発表されていると思いますか。

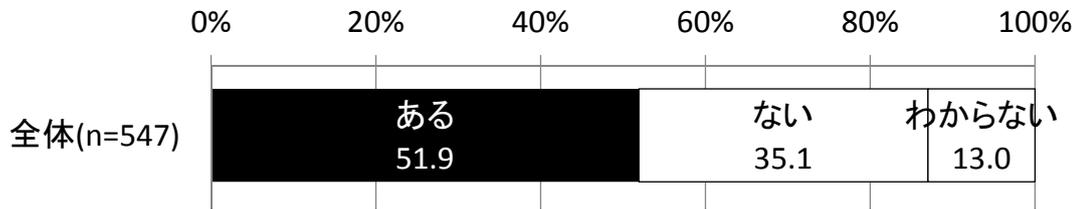


- 県単位くらい
- 県内を複数の地域に区分するくらい
- 市町村単位くらい
- 市町村内をさらに複数の地域に区分するくらい
- わからない

4

土砂災害警戒情報の認知

気象庁から、市町村程度の地域的な広がり単位として、「土砂災害警戒情報」という情報が発表されることがあります。「土砂災害警戒情報」という情報を見たり、聞いたことがありますか。

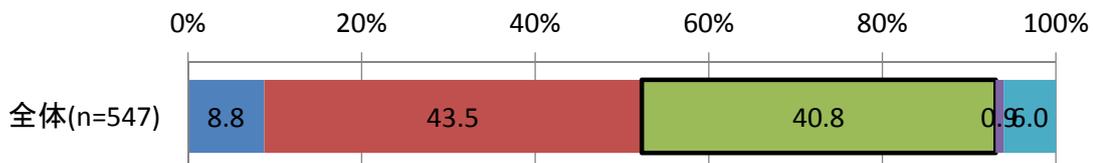


土砂災害警戒情報を見聞きしたことがある回答者は5割程度

5

土砂災害警戒情報の意味

「土砂災害警戒情報」とはどのような時に発表される情報だと思いますか。



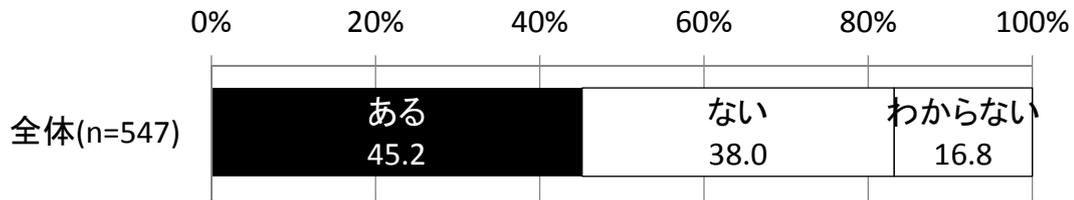
土砂災害警戒情報の意味を適切に理解している回答者は4割程度

- すぐに土砂災害が発生するほどではないが、念のため注意した方がよい時
- 土砂災害が発生する可能性が生じた時
- 土砂災害が発生する危険度が高まった時
- 土砂災害が発生した時
- わからない

6

記録的短時間大雨情報の認知

気象庁から、市町村程度の地域的な広がり単位として、「記録的短時間大雨情報」という情報が発表されることがあります。「記録的短時間大雨情報」という情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。

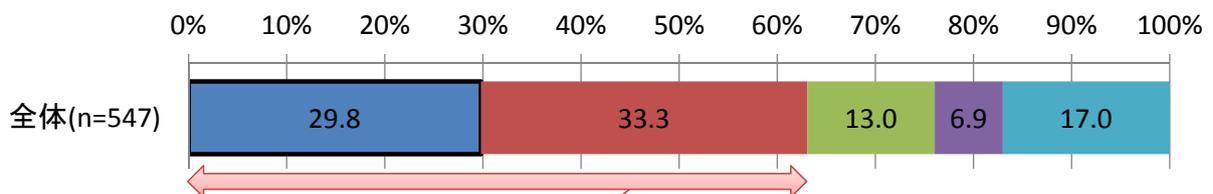


記録的短時間大雨情報を見聞きしたことがある回答者は5割弱

7

記録的短時間大雨情報の意味

「記録的短時間大雨情報」とはどのような時に発表される情報だと思いますか。



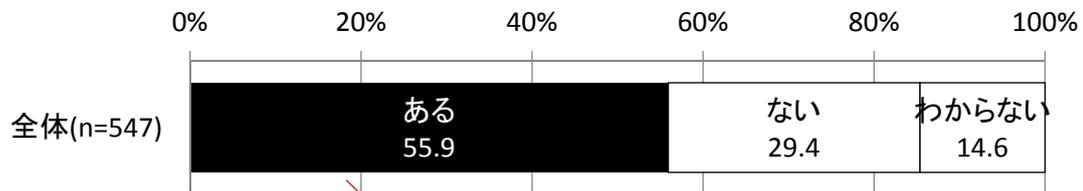
記録的短時間大雨情報の意味をおおむね適切に理解している回答者は6割程度

- 1時間の雨量が、その市町村においては数年に一度程度しか発生しないくらいの値を記録した
- 1時間の雨量が、その市町村においては数十年間に一度程度しか発生しないくらいの値を記録した
- 1時間の雨量が、日本全国で数年に一度程度しか発生しないくらいの値を記録した
- 1時間の雨量が、日本全国で数十年間に一度程度しか発生しないくらいの値を記録した
- わからない

8

記録的な大雨に関する気象情報の認知

気象庁から、複数市町村程度の地域を単位として、「これまでに経験したことのないような大雨」という情報が発表されることがあります。「これまでに経験したことのないような大雨」という情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。



「これまでに経験したことのないような大雨」(記録的な大雨に関する気象情報)を見聞きしたことのある回答者は5割以上

9

記録的な大雨に関する気象情報の意味

「これまでに経験したことのないような大雨」とは、次の中で選ぶとすれば、どのような大雨だと思いますか。



「これまでに経験したことのないような大雨」の意味をおおむね適切に理解している回答者は6割強

- 情報が発表された市町村周辺では過去に記録されていない大雨
- 情報が発表された市町村を含む都道府県内では過去に記録されていない大雨
- 日本全国で見ても過去に記録されていない大雨
- 世界中で見ても過去に記録されていない大雨
- わからない

10

記録的な大雨に関する気象情報

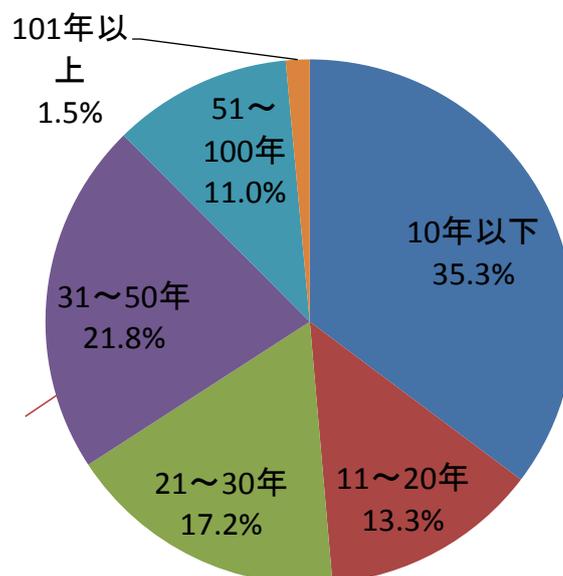
- 48時間雨量等が50年に一度の大雨となった5km格子が50格子以上となった場合
 - 土壌雨量指数, 流域雨量指数も併用
- 「経験したことのない大雨」と表現
 - 「その地域にとって最近50年間経験したことの無いような大雨」の意味
 - 「日本全国でこれまでに起きたこともないような大雨」ではない

記録的短時間大雨情報とはことなり、「降り始めからの総雨量が大きな値になっている」ことを警告する情報

11

記録的な大雨に関する気象情報の意味

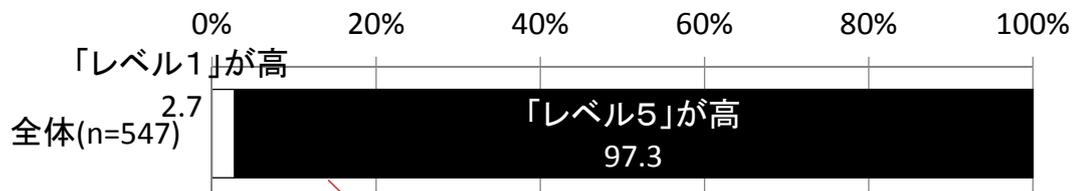
「これまでに経験したことのないような大雨」の「これまで」とは、具体的には過去何年間くらいのことだと思いますか。年数を数字で記入してください。



50年程度の数値を挙げた回答者は21.8%
30年以下の短期間を挙げた回答が65.8%

レベル1とレベル5のどちらが危険か

仮に「大雨警報レベル1」～「大雨警報レベル5」のように、5段階のレベルで警報が発表された場合、災害発生危険性が高いのは「レベル5」の方だと感じますか、あるいは「レベル1」の方だと感じますか。

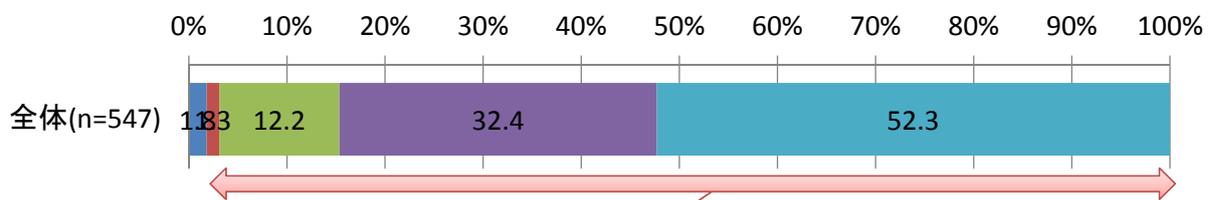


「数字が大きいほど情報としての危険性・深刻性が高い」ということを大半の回答者が理解

13

どのレベルで災害発生すると思うか

仮に「大雨警報レベル1」～「大雨警報レベル5」のように、5段階のレベルで警報が発表された場合、死者の発生・住家の床上浸水や全壊などの被害が発生する可能性があると感じるのは、どのレベルですか。



まとまった被害が出始めるのはレベル3以上と認識している回答者が大多数. レベル5が過半数

- 大雨警報レベル1
- 大雨警報レベル2
- 大雨警報レベル3
- 大雨警報レベル4
- 大雨警報レベル5

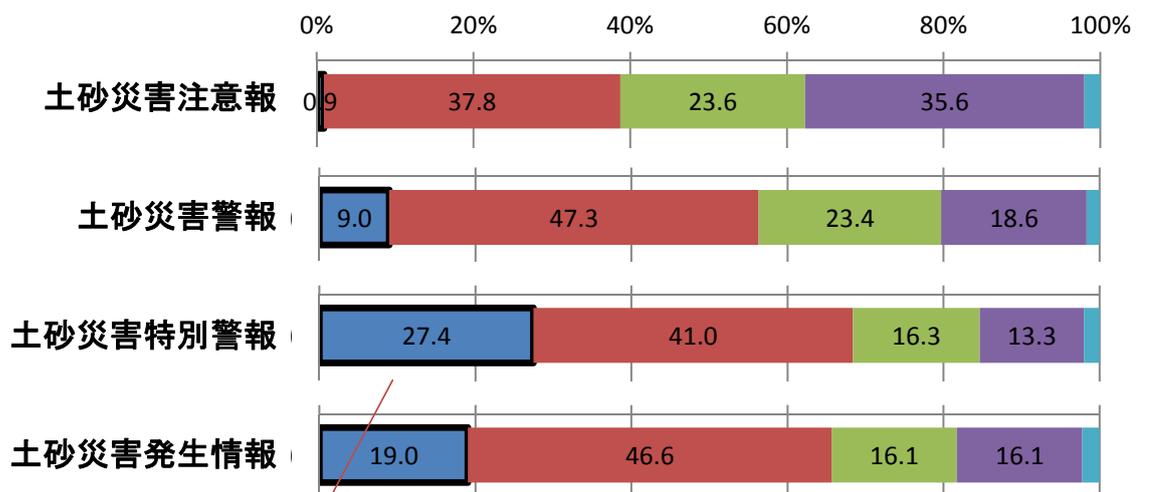
14

防災気象情報等に対する 行動意向についての質問

- この設問では、次のような場所にあなたが居住していると仮定して、お答えください。
 - あなたのご自宅は山に近く、ハザードマップ上で「土砂災害警戒区域(土砂災害に見舞われる可能性のある場所)」内にあると示されています。
 - あなたのご自宅の構造は、木造2階建てです。
 - ご自宅から徒歩5分ほどのところに、避難所となっている公民館があります。この公民館がある場所は、「土砂災害警戒区域」の範囲外にあります。
- この場所に居住している時に、次のような名称の情報が発表されたとしたら、あなたはそれぞれどのように行動すると思いますか。
 - ※これらの情報は、危険度の強さの順に並んでいるものではありません。

15

土砂災害関係の「言葉」情報への対応意向



特別警報は警報や発生情報より「避難する率」が高い

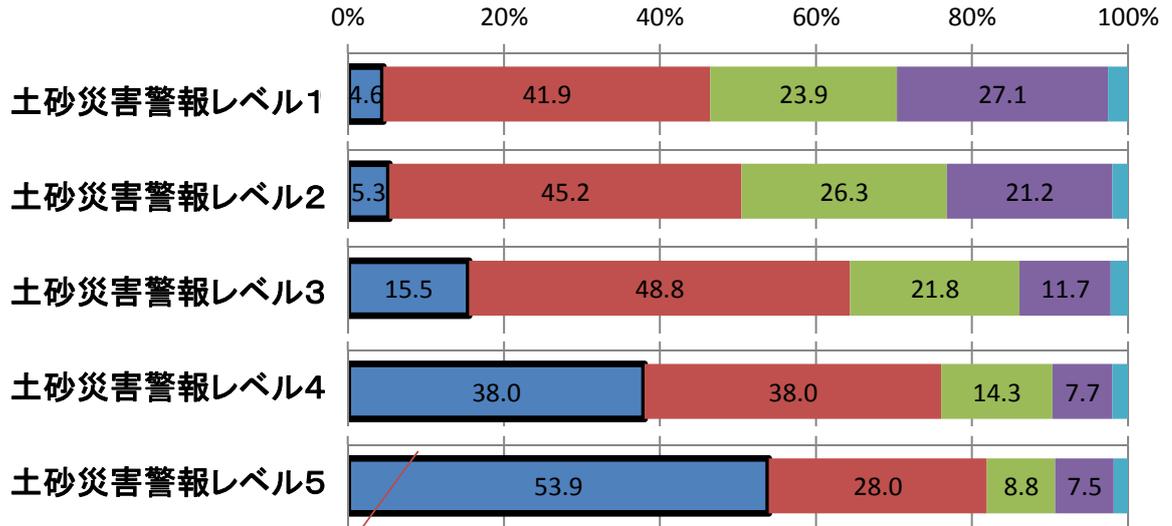


明確に異なる対応を求める場合(特別な場合)に出すべき情報

- すぐに避難所に避難する
- テレビなどで情報を集める
- 付近の様子を見る
- 特に何もしない
- わからない

16

「土砂災害警報レベル*」への対応意向

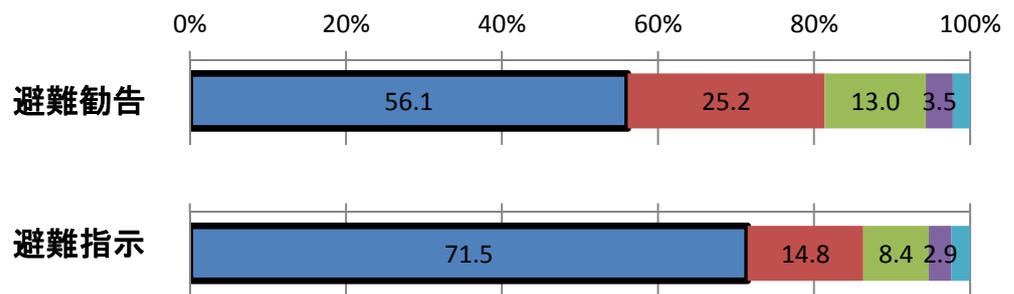


- 「避難する」が1割を超えるのは3から
- 4, 5は特別警報等より「避難する」率高
- 5でも5割強

- すぐに避難所に避難する
- テレビなどで情報を集める
- 付近の様子を見る
- 特に何もしない
- わからない

17

避難勧告・避難指示に対する対応意向



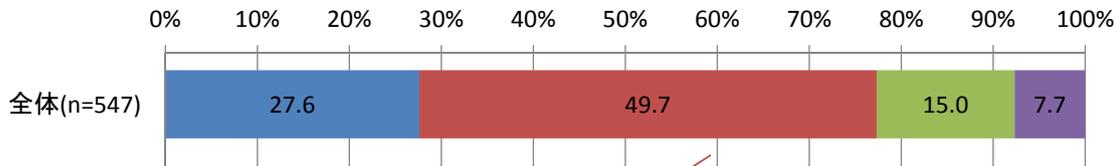
- 避難勧告の「避難する」率は「レベル5」と同程度
- 避難指示で7割
- 「意向」であり、実際の避難率は低い可能性

- すぐに避難所に避難する
- テレビなどで情報を集める
- 付近の様子を見る
- 特に何もしない
- わからない

18

文字表現か，レベル表現か

大雨や土砂災害など、気象災害の危険性の程度を伝える情報は、「大雨注意報、大雨警報」のように言葉で表す方法と、「大雨警報レベル3」のように数字で表す方法が考えられます。あなたにとっては、どちらの方法の方が、危険性の程度を理解しやすいと思いますか。

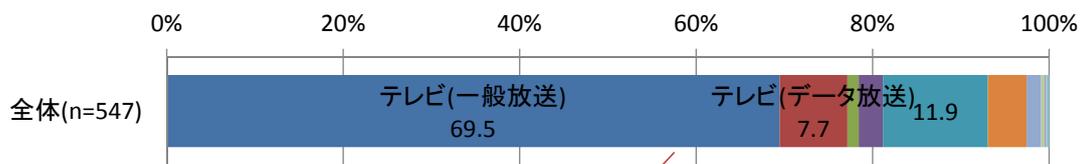


「レベル」の方がよいとの回答が多い(49.7%)が、「どちらでも変わらない」や「わからない」も2割以上

- 「大雨注意報、大雨警報」のように言葉で表す方法が理解しやすい
- 「大雨警報レベル3」のように数字で表す方法が理解しやすい
- どちらでも変わらない
- わからない

警報等入手に最も利用するメディア

気象に関する警報が発表されたことを知るための情報メディアとして、あなたは何を使用したいと思いますか。-もっとも利用する

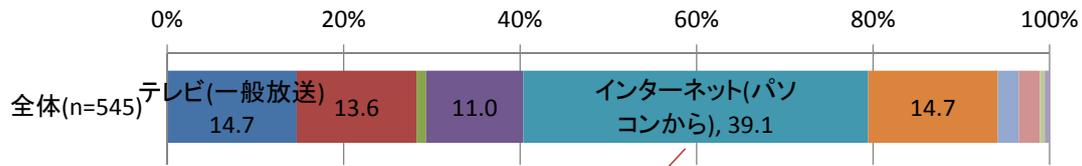


ネット利用者を対象とした調査でも、気象警報を入手する最も主なメディアとしてはテレビを挙げる回答が最多

- テレビ(一般放送)
- テレビ(ワンセグ)
- テレビ(データ放送)
- ラジオ
- インターネット(パソコンから)
- インターネット(携帯・スマホから)
- 登録制の災害情報メール
- 行政機関からの放送
- 家族や近所の人からの口頭連絡
- その他のメディア
- そもそも警報の発表について知ろうと思わない

警報等入手に二番目に利用するメディア

気象に関する警報が発表されたことを知るための情報メディアとして、あなたは何を使おうと思いますか。 -二番目に利用する



「二番目」はインターネットが最多だが、分散傾向

- テレビ(一般放送)
- テレビ(データ放送)
- テレビ(ワンセグ)
- ラジオ
- インターネット(パソコンから)
- インターネット(携帯・スマホから)
- 登録制の災害情報メール
- 行政機関からの放送
- 家族や近所の人からの口頭連絡
- その他のメディア
- そもそも警報の発表について知ろうと思わない

21

まとめ

- そもそも「警報」の意味や定義すら実際と乖離あり
 - 土砂警, 記録雨, 経験ない大雨
 - 土砂警, 記録雨を見聞き5割前後. 意味を理解は4~6割
 - 「経験したことのない大雨」見聞き5割, 意味の理解は7割弱
- ↓
- 用語を定着させることは難しい.
- レベル化
 - 「レベル」数値大が危険度高は97.3%が認識.
 - 被害が出るのはレベル3以上と認識が96.9%, 52.3%はレベル5.
 - 特別警報等の「言葉」での情報よりも「レベル」情報の方が, 「すぐに避難」率が高くなる傾向だが, 「レベル5」でも53.9%.
 - 「言葉」での情報よりも「レベル」情報の方が理解しやすいとの回答が49.7%.
- ↓
- レベル化の効果は認められるので, 数値と現象の対応を慎重に検討する必要性. これが不適切だと, 不適切な行動を喚起する危険性も

22